

平成 16 年 10 月 15 日（金）の 9:30 から 12:00 まで、函館市勤労者総合福祉センター「サン・リフレ函館（小会議室）」において、第 24 回の物流研究会が 20 名ほどの参加者を得て開催された。

本研究会は「一般講演」、「プロジェクト研究成果の発表」および「研究会総会」の順で進められた。

プロジェクト研究とは研究会のメンバーからプロジェクト研究としてテーマを募り、採択されたものに一定の予算を配分するとともに、本研究会で発表していただくとするものである。ここ数年秋期の研究会では前年度発表されたプロジェクト研究の成果について報告していただくとともに、来年度に向けて新たなプロジェクト研究のテーマについて発表が成されている。

本研究会の具体的な内容は以下の通りである。

## 1. 一般講演

以下の 3 つの講演が行われ、活発な議論がなされた。

- ・「物流の混迷と物流教育の課題」

松尾俊彦（東海大学）

近年大学の学科名などに「流通」といった名称がつくものが目に付くようになり、物流に関する講義も増えてきている。しかしながら、流通・物流分野のカリキュラムについては未だ確固たるものは存在していない。本研究では、高校生が持つ「流通」や「物流」といった言葉のイメージからどの程度物流が理解されているかといったことを明らかにする一方で、民間企業で物流に携わる者がどのような知識や技術を必要とされているかといったことも明示しながら物流を教授するための基本カリキュラムについて構築しようとしており、物流研究に「教育」という新しい課題を投げかけていた。

- ・「ポジショニング機能を有したトラック

- 荷台衝撃計測システムの開発」

齋藤勝彦（神戸大学大学院

自然科学研究科）

GPS の復旧にはめざましいものがあるが、本発表では産学協同で開発された GPS 装置を応用した荷台衝撃計測システムについて紹介が成された。荷崩れや荷痛みの原因の究明や新しい包装設計技術の開発にこうした装置の利用が大きく寄与するものと考えられ、今後この装置を利用した研究成果を期待したい。

- ・「国内主要港湾間の最短路提示システム」

永岩健一郎（広島商船高等専門学校）

松尾俊彦（東海大学）

科学的な分析には正確なデータが不可欠であるが、物流現象を把握するための正確なデータは整備されているとは言い難い。本発表では物流経路選択などの分析には欠くことのできない距離データのデータベース化を行おうとするもので、今後誰もが簡単に利用できるデータベースへの発展が期待される。

## 2. プロジェクト研究成果の発表

本年度におけるプロジェクト研究の成果の概要について、以下のような紹介がなされた。

- ・「港湾特性と事業者意識からみた港湾運送事業に関する研究」

土井義夫

（東京海洋大学（旧東京商船大学）  
大学院商船学研究科）

本研究では、港湾事業に関する問題点やその対策について港湾事業所を対象にしたアンケート調査から明らかにするとともに、事業収益から港湾の特性を分析することで、港湾事業所のあり方についていくつかの提言を行っていた。